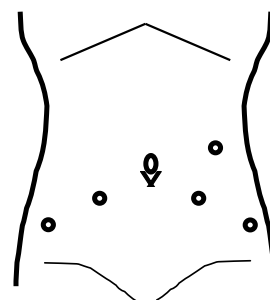


## ロボット支援体腔鏡下前立腺全摘除術

ロボット支援前立腺全摘除術はロボット機器の補助により、精度の高い手術を行うことが可能になります。3次元画像を最大10倍まで拡大して見ることができ、器具の先端は人間の手と同等以上に繊細に動きます。出血量は少なく、術後尿失禁の発症率を減らす可能性、性機能の温存を意図した場合に性機能不全の発症率を減らす可能性があります。

全身麻酔をしてから腹部に6ヶ所、1cm前後切開し、トロカーと呼ばれる筒状の器具を留置します。二酸化炭素でおなかをふくらませて前立腺をロボット用内視鏡で観察できるようにします。ロボットアームに接続した手術器具をトロカー孔から入れ、3次元画像で見ながら操作を行います。



手術は、頭を下げ、足を挙げた状態で行います。原則として、骨盤内のリンパ節を同時に摘除します。前立腺を精嚢とともに摘除し、膀胱と尿道を縫い合わせて（吻合）、尿道カテーテル（バルーン）を留置します。へその上の創を約3cmに切開を広げ、前立腺を摘出します。通常、翌日から飲水、歩行が可能であり、一般的に開腹手術に比べて、短期間の入院ですみます。

前立腺摘出前

前立腺摘出後

膀胱尿道吻合後



ロボット支援手術と言っても、ロボットが手術を直接行うわけではなく、ロボットを直接操作するのは医師自身です。医師が前立腺がんや骨盤の解剖を熟知し、ロボット操作を習得していることが前提です。

ロボット支援前立腺全摘除術は、頭を下げ、足を挙げた状態で行うため、通常の開腹手術の術前検査に加え、いくつか追加の検査を術前に施行しています。